

読書感想文のポイント ～朝日小学生新聞より～

本は、できるだけ自分で選びます。感想文のためと意識しないで、「好きな本を読む」という気持ちで、本選びから楽しんでください。小説、科学読み物、スポーツ選手の伝記など、興味のある分野から探すと決めやすいかもしれません。今までに読んで「おもしろかった」「こわかった」など印象に残っている本から、もう一度読んでみたい作品を選ぶのもいいでしょう。自分で決めるのが難しい人は、書店や図書館のお薦めの本をさんこうにしたり、図書館の司書に相談してみたりするのもいいと思います。

選んだ本は、できれば2回は目を通してほしいです。1回目を読むとき、「この場面がいいな」など、心を引きつけられたページにしおりをはさみます。自分の本なら付せんを貼ってもいいですね。その後、家族などに、「どんな本の内容か」「作品について感じたこと」を伝えます。人に話すことで、自分の考えも整理できるからです。もう1回読んでから、メモを作ります。登場人物の行動で印象に残ったところなどを書き出します。「〇〇の場面で、△△は××に会って嬉しかったと思う」など、短い文でかまいません。カードに書くと、文章の順番を考えると、並べ替えができて便利です。

次に下書きです。物語のあらすじにそいながら、自分の意見を書く、物語を自分の体験と比較して書く、などいくつかの方法があります。下書きができれば、読み上げて家族などに聞いてもらいます。声に出すことで、誤字、脱字などに気づきやすくなります。文末の表現も、同じ表現が繰り返されていたら、変化をつけるように工夫してみましょう。たとえば、嬉しい気持ちの表現には「楽しかった」「うきうきした」「心がはずんだ」などがあります。

その後、清書します。ゆっくりていねいに書きましょう。

天声(てんせい)の語(ご)

「継続は力なり」という言葉があります。やり続けることの大切さを表している言葉です▼みなさんも夏休みには何かひとつやり続けてみませんか。ふだんより時間に余裕があるので、1か月あまりという期間もやり遂げるにはちょうどいい長さだと思えます▼やることは自分のためになるなら何でもいいと思えます。たとえば、朝日小学生新聞を読んで興味をもった記事を切り抜くというはどうでしょう。切り抜いた記事をノートにはって余白に自分の感想を書きます。毎日いろいろなニュースについて考えることになり、夏休みが終わるころには少し成長した、と思えるのではないのでしょうか▼実はこの方法はジャーナリストの池上彰さんに聞いたものです。池上さんは中学生の時、当時開かれた東京オリンピックの新聞記事をノートにはって感想を書いていたそうです。とてもためになったと振り返っていましたよ。

2019.7.5

1 本を選ぶ
できるだけ自分で決めよう

2 本を読む
印象に残ったところにしおりをはさむ

3 家族に感想を話す
どんな気持ちになったか伝える

4 書く前の準備
感動した場面などをメモにする
切りはなせるメモ帳などがおすすめ

5 下書き
メモを参考に1回書いてみる
下書きを家族に読んで聞いてもらう

6 清書をする
ゆっくりていねいに書く
漢字のまちがいなどを確認